

うちの「宇宙の学校」



TAMA 宇宙委員会代表

会員 三浦千穂

現在、多摩市では2か所で「宇宙の学校」を開催しています。一つは開校してから4年目を迎えた『多摩市「宇宙の学校」』、そしてもう一つは3年目を迎えた『多摩市「宇宙の学校」@東寺方小学校』です。主催団体であるTAMA宇宙委員会と多摩市「宇宙の学校」@東寺方小学校実行委員会は協力関係にあり、どちらも実行委員会形式の市民団体です。

約4年前、TAMA宇宙委員会(旧・多摩市宇宙の学校実行委員会)を立ち上げたきっかけは、私自身が子どもたちと一緒に何か楽しいことに参加したいと考えたことでした。あることで「宇宙の学校」の存在を知った私は多摩市近辺で参加できる会場をKU-MAのHPで探しましたが全くありません。というもほとんどが主催者の事情で、参加対象が開催地に居住する市民に限定されていたからです。そこで参加を諦めることも出来たでしょう。

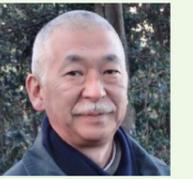
しかしKU-MA設立にあたっての的川先生の熱い思いに触れたとき、私の中で何か突き動かされたように「誰かがやるのを待つのではなく、この私が多摩で『宇宙の学校』を開校させよう」決めたのでした。

実際にスクーリングで行うことは工作や実験ですが「宇宙の学校」の活動の根幹には私たち一人一人、生命のひとつひとつが宇宙の一部なのだという事実と、自他共に尊くそしてお互いが必要な存在なのだという多様性の共生思想があります。それが子どもたちの「気づき」につながっていく。そしてその「気づき」が閉塞した現代に差し込む一筋の光、未来への希望となっていくわけです。こんな素晴らしい学校がほかにあるのでしょうか。

小さな一歩ではあるかもしれない、しかし子どもたちに希望を与えることが確実にできるこの活動を私はライフワークとして取り組んでいこうと思っています。今後は「宇宙の学校」に参加できる子どもを増やすべく、多摩市近辺で開催したいという方への主催団体設立支援等にも力を入れていきたいと考えています。



KU-MA とわたし



相模原「宇宙の学校」

実行委員会・事務局

会員 長崎克典

数年前の夏、敬愛する知人より「君に紹介したい方がいるので付き合ってくれたまえ」とのお誘いを受け、何も知らずに連れていかれたところがJAXA宇宙科学研究所で、お会いした方が的川先生でした。当時先生はKU-MAを設立されたばかりで、一気にその想いをお話してくださいました。それを聞いた私は大いに心を動かされ、早速、入会し、様々な経験をさせてくださいたいと思っています。

先生がKU-MAを通して世の中に投げかけた「何か」が、当時は子供が通う小学校でPTA役員をしていた私がちよんども求めていた「何か」と一致していたような気がしました。その後相模原で「宇宙の学校」を立ち上げ、試行錯誤を重ねつつ「宇宙の学校」を通して「何か」を実践するとともに、事務局の近くに自宅も職場もあるため、ささやかですがお手伝いをしています。若いころから世界観という言葉に敏感で、様々な国を旅して異なる文化を知ることから日本を眺め直して何やら分かったような気分でした。KU-MAの活動を通して地球を外から眺めたよ

うな見聞を得て、地球のことが分かるようになったか?と言うとそうでもありません。何故か身の回りの事への愛おしさを肌で感じるようになったのです。身近な事(特に小さいのち・自然など)に豊かさを感じ、物の見方や考え方が少し変わったような気がします。

ところで私が感じている「何か」とは、さほど特別な事ではなく「良識を持って行動する」なんて事かと思えます。二月に大雪が降り、隣近所の人たちと力を合わせて周辺の雪かきをしました。自宅の前はもちろんです。余裕のある人は空地の前やゴミ捨て場、最後はこども達の通学路まで雪かきを終え、汗をかいた爽やかな笑顔で「お疲れさまあ〜♪」こども達はそそのそばで手伝ったり、滑り台を作ったり、雪合戦をしたり。かつてはあたりまえの風景ですが、昨今はどこでも行われているわけでは無さそうです。KU-MAの活動はどこか「雪かき」に似ていませんか?



「宇宙の学校」と教材 I

副会長 遠藤純夫

KU-MAは、宇宙の魅力を通して、子どもたちの明るい未来を築きたい、豊かな心をもった子どもたちを育てたいと思う人たちの集まりです。

主な事業の一つに、JAXA宇宙教育センターと連携した「宇宙の学校」を全国で展開しています。「宇宙の学校」は、親子で行う家庭学習に重点をおいた教育プログラムで、先生は、お父さんやお母さんなど子どものそばにいるお家の人です。学習の場は家庭と年に数回実施するスクーリング会場です。子どもが「なぜ、どうして」と思ったときに、調べたり、試したり、つくったりして考え、「わかった、できた」としたらどんなにうれしいでしょう。「その時」の体験は深く心に刻まれ、知識や技能も身につけていきます。人を大きく変える「その時」を「教育の適時性」といいますが、その機会は子どものそばにいるお家の人によく訪れるはずで、「宇宙の学校」では、こうした喜びを親子で味わう機会を積極的に創りだすための工夫やしくみを大切にしています。

「宇宙の学校」のテキストは、子どもの身近にある「なぜ、どうして」を「課題」に変え、親子で一緒に探求するように構成されています。子どもの多様な疑問や家庭での年間学習に対応できるように現在90を超えるテキストが用意されています。

年に数回のスクーリングは、宇宙の学校に参加している家庭の皆さんが集まり、大勢の仲間と同じ課題に取り組む学習の場です。例えば、「熱気球を打ち上げよう」では、お父さんやお母さんが協力して大きなポリ袋を加工して熱気球をつくり、楽しいお絵かきをして熱気球に乗せるのは子どもたちです。親と親、親子、子どもと子どもの絆は自然と深まっていきます。

スクーリングで、「子どもの意外な面を発見した」「できものを買い与えていたが、親子でいっしょにつくる楽しさに気がついた」などいろいろな感想が寄せられています。よその親子の関係にも気付き互いに良い点を吸収しあっていることが出来ます。何より大切にしたいのが、このような親子の体験をそのまま家庭で継続実施してもらうことです。スクーリング会場が、講義形式の配置ではなく、ブルーシートになっていたり、机を合わせた作業台のようにになっているのは、同じ課題に取り組む仲間の関係を大切にしたいからです。

ここでの講師やボランティアの人々の役割は、お父さんやお母さんを先生にして課題解決に当たってもらえるように仕向けることです。親をその気にさせることが冒頭に述べた「親子で行う家庭学習に重点をおいた教育」を展開するのに必須な条件となるからです。

「宇宙の学校」の教材はこうした視点から作られています。これらの教材については次の機会に紹介します。

